

令和7年度 広島文化賞受賞

団体の部



ひろしまへいわびじゅつぎょうかい
広島平和美術協会
美術
広島市

1955 年の原水爆禁止世界大会に合わせて開催された「広島平和美術展」をきっかけに、柿手春三（初代会長）、四國五郎など被爆者の画家と被爆地広島に心を寄せる人たちによって同年に設立され、現在、約 200 名の会員で構成される。

創設以来、被爆地広島で平和希求の熱い思いを創作活動で表明する場を担い、1968 年からは「広島平和美術展ニュース」の発行を開始。1994 年の広島アジア競技大会の際には芸術展示に参加し、1995 年の被爆 50 年には全国 38 都市の「平和美術展」の作品を招待したほか、1998 年広島・長崎平和美術協会の交流美術展をアメリカ・ニューメキシコ州で開催しその後 10 年近く交流するなど、美術を通して国内外と交流し、平和学習に協力するなど数々の社会教育活動を行っている。

審査や賞を設けないアンデパンダン方式を採用し、原爆の日の前後に多様なジャンルの作品を出品する総合美術展として開催。収益は平和維持活動に寄付し続けており、2024 年からは高校生の出品料を無料化するなど、若い世代を含む幅広い人々に発表の場を提供している。

広島文化賞 贈呈の状況

回	開催年月日	贈呈数		回	開催年月日	贈呈数		回	開催年月日	贈呈数	
		個人	団体			個人	団体			個人	団体
第1回	昭和55年10月21日	11	4	第19回	平成10年10月28日	2	1	第37回	平成28年11月24日	1	1
第2回	昭和56年10月21日	8	4	第20回	平成11年10月13日	2	—	第38回	平成29年11月30日	2	—
第3回	昭和57年10月14日	5	6	第21回	平成12年10月25日	2	1	第39回	平成30年11月6日	1	1
第4回	昭和58年10月20日	7	6	第22回	平成13年10月18日	2	1	第40回	令和元年11月8日	—	—
第5回	昭和59年11月6日	6	6	第23回	平成14年10月24日	2	1	第41回	令和2年12月4日	1	1
第6回	昭和60年11月13日	5	5	第24回	平成15年11月21日	2	1	第42回	令和3年12月6日	1	—
第7回	昭和61年12月3日	5	5	第25回	平成16年11月16日	2	1	第43回	令和4年12月2日	1	1
第8回	昭和62年11月2日	3	4	第26回	平成17年12月3日	2	1	第44回	令和5年12月20日	—	1
第9回	昭和63年11月29日	4	4	第27回	平成18年11月28日	2	1	第45回	令和6年12月11日	2	—
第10回	平成元年11月20日	4	3	第28回	平成19年11月26日	2	1	第46回	令和7年12月5日	—	1
第11回	平成2年11月14日	3	6	第29回	平成20年11月18日	2	1				
第12回	平成3年10月25日	6	6	第30回	平成21年11月26日	2	1				
第13回	平成4年10月27日	4	2	第31回	平成22年11月22日	2	1				
第14回	平成5年10月22日	3	3	第32回	平成23年11月14日	2	—				
第15回	平成6年10月8日	3	3	第33回	平成25年11月19日	1	1				
第16回	平成7年10月15日	2	1	第34回	平成25年11月25日	—	1				
第17回	平成8年10月19日	2	1	第35回	平成26年11月26日	2	1				
第18回	平成9年10月15日	2	1	第36回	平成27年11月16日	2	1	合計	個人 125	団体 92	



令和7年度 ひろしま文化功労者表彰受賞

個人の部



みやもと すみいつ 氏

地域文化
福山市

福山市在住、スタンフォード大学客員教授・医学部脳科学研究所研究員・福山市文化財保護審議会委員・福山市文化財協会会長、70歳。福山市内海町出身で田島に由来する古式捕鯨に用いられた網舟「双海船（そうがいふね）」や鯨網の復元に取り組む。

大学院入学以降日本の古式捕鯨について研究を続け、2010年モロッコでの国際捕鯨委員会で発表。これをきっかけに、スタンフォード大学客員教授に招かれ、同大での研究を進める過程で鯨の血管などががんの転移と深い関わりがあることを明らかにし、免疫学博士号を取得。世界的な活躍と同時に、内海町誌の執筆や福山市古文書調査記録の監修に携わるほか、福山市主催の古文書解説講座や地元小・中学校教員や漁協組合員への講演・ワークショップの講師を務めるなど、地域文化の指導普及にも尽力している。

団体の部



とくていひ えいりかつどうほうじん
特定非営利活動法人
ちやの ゆさいじきどうこうかい
茶の湯歳時記同好会

生活文化
尾道市

会員1,200名12流派から構成。1972年創立、2022年の特定非営利活動法人の認証を経て、50年余りにわたり尾道市を中心に国内外で茶道の発展のため流派を超えて積極的な活動続ける。

尾道市浄土寺などの文化財を利用した茶会を多数開催し、2013年からは機関誌「茶の湯歳時記同好会新聞」の発行、2022年からは備後地域の文化・文化人を顕彰する茶会シリーズ「茶乃湯～西国街道をゆく」を企画するほか、地域や高等学校での講演会や小学校の茶道クラブへの指導など、地域の茶道文化の振興に尽力している。

加えて、尾道市の国際交流ボランティア団体による茶会への指導や欧米アジア各地での茶会の実施など、国際交流にも努めている。

ひろしま文化功労者表彰 贈呈の状況

回	開催年月日	贈呈数	
		個人	団体
第 1 回	平成 25 年 11 月 25 日	—	
第 2 回	平成 26 年 11 月 26 日	—	
第 3 回	平成 27 年 11 月 16 日	3	
第 4 回	平成 28 年 11 月 24 日	1	
第 5 回	平成 29 年 11 月 30 日	1	
第 6 回	平成 30 年 11 月 6 日	2	
第 7 回	令和 元年 11 月 8 日	2	
第 8 回	令和 2 年 12 月 4 日	1	
第 9 回	令和 3 年 12 月 6 日	1	
第 10 回	令和 4 年 12 月 2 日	2	—
第 11 回	令和 5 年 12 月 20 日	1	—
第 12 回	令和 6 年 12 月 11 日	1	—
第 13 回	令和 7 年 12 月 5 日	1	1
合 計		16	1

※令和4年度から団体の部を創設



公益財団法人ひろしま文化振興財団

令和7年度 広島文化新人賞受賞

個人の部



イタイミナコ氏
美術／地域文化
広島市

広島市在住、31歳。広島市立大学大学院芸術学研究科博士後期課程在籍、美術作家／アート・メディエーター。

博士前期課程修了後、美術家として活動を開始し、2022年から1年間、文化庁事業「広島芸術都市ハイヴ」の職員を務め、アート・メディエーターとして、みしまARTログ、一般社団法人オルタナティブスペースコア、宮島芸術祭実行委員会で活動。

2019年に広島市宮基町高層アパートに学生で特例入居後、「基町文化研」と銘打ち、多世代、多国籍の住民が集う基町の住民から地域に関わる話を記録・伝承する取り組みを始める。現在は自治会長を務め、地区内アートスペースの運営や、大学や行政のプロジェクトと連携し、県内外から訪れる研究者・学生に地域の文化的背景を解説・案内する役割を担う。

こうした地域の固有の文化を掘り下げ、向き合う独自の活動を各地で立ち上げ、憑依を技法として取り入れながら、パフォーマンスや映像を媒体とする表現活動を精力的に行っている。多くの地域住民との関わりあいから生まれる領域横断的な創造活動は、地域へ果たす効果として国内でも類を見ない。



おみ だい すけ
尾身大輔氏
美術－彫刻
三原市

三原市在住、33歳。広島市立大学大学院芸術学研究科造形芸術専攻彫刻研究博士前期課程修了、同大学非常勤助教を経て、2023年から三原市小佐木島の公益財団法人ポエック里海財団文化芸術担当及び里海環境保護担当として活動。

作品は、主に昆虫や甲殻類などの生物を巨大化させた木彫であり、神話・宗教・民俗伝承から見た「人と自然との関わり」をテーマに木彫の技法を用いて表現し、鑑賞空間そのものを変容させ、その世界観を見るものに直接的に体験させる表現技法が評価されている。

県内医療法人による「清風会芸術奨励作品展」芸術奨励賞、「広島市立大学卒業・修了作品展」優秀賞を受賞。個展「空想と虫籠」や小豆島の三都半島アートプロジェクトや瀬戸内国際芸術祭など県内外でのグループ展を発表の場とし、大型の木彫作品は国内外からの来場者の人気を博した。三原市小佐木島に移住後は、財団保有のアートギャラリーの運営・管理、及び島内環境の整備に従事し、5人目の島民として地域の発展、芸術資源の保全、芸術による社会教育に取り組んでいる。

今後も小佐木島での活動を継続し、将来的には、個展の開催、作品の島内設置による地域の活性化を目指している。



かん た たえ み 氏
神 田 妙 美 氏
美術—日本画
福 山 市

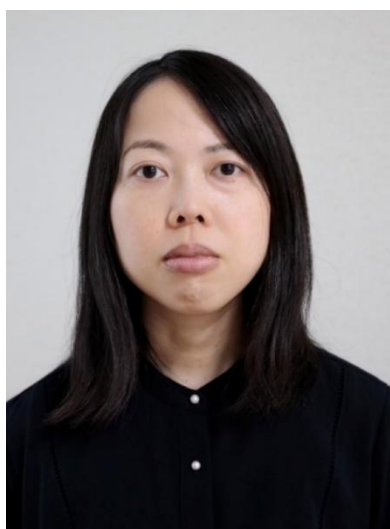
福山市在住、37歳。尾道市立大学大学院美術研究科（日本画）修了。大学卒業後から各種の絵画教室の講師を務める。

学生時代は尾道のノスタルジックな風景を中心に風景画（日本画）を制作。近年は広島出身として、平和のための異文化理解の重要性を感じ、旅先の風景をテーマに歴史的背景を調べ、自身の身近に感じたモチーフと重ねて1つの作品への融和を求めて描いている。

日本画公募の院展を主な発表の場として、グループ展などで活動し、春の院展では11回、再興院展（秋）では8回、合計19回の入選を果たし、再興第110回院展では「奨励賞」を受賞。日本画の登竜門として知られる「臥竜日本画大賞展」入選、日本画若手作家による研究発表展「有芽の会」法務大臣賞受賞。

講師を務める日本画教室では尾道市だけでなく三原市、福山市、府中市から集う幅広い世代との交流で技術を高め合うほか、県立三原高校の記念絵画修復にも携わっている。

個展やアートプロジェクトに継続的に参加し、地元広島をはじめ東京など全国で精力的に活動中。



こ だま か おり 氏
児 玉 香 織 氏
美術—現代美術
尾 道 市

東広島市在住、39歳。美術家。尾道市立大学芸術文化学部美術学科卒業後、美術家として活動しながら、保育園や幼稚園などで造形指導を始める。

料理や食材をモチーフに青いキャンバスや方眼紙に線を描く作品を制作。作家の感情やモチーフのイメージではない、線が作るかたちを追及する独自の表現スタイルを持つ。

県内外で個展・グループ展を開催する中、多くの現代アート作家を輩出したギャラリー「ラディウム・レントゲンヴェルケ」で注目を集めた。また、著名な現代美術コレクターによる「高橋コレクション」や「ヒロセコレクション」にも作品が収蔵され、今後の活躍が期待されている。

県内ギャラリーが行う児童対象のオンライン造形ワークショップの講師を務めるほか、尾道市立大学で大学院生を対象としたレクチャーも行うなど、地域貢献や後進育成にも取り組んでいる。



まえ だ ゆ め 氏
美術—日本画
広島市

広島市在住、43 歳。美術家。広島市立大学大学院芸術学研究科博士後期課程総合造形芸術専攻満期退学後、美術家として活動を始め、県内の中・高等学校、比治山短期大学部美術科で非常勤講師、広島市立大学芸術学部で非常勤助教を務める。

使用する和紙に植物染料で染め付けする手法で、紙の風合いを生かしながら作品の優しい表情につなげる従来にない表現方法が高く評価されている。

2009 年以降欠かさず「創画展」に出品し継続的に入選を果たし、2009 年「奨励賞」、2024 年、2025 年「東京春季展賞」を受賞。また広島信用金庫日本画奨励賞を 2025 年に受賞している。

地域のワークショップで講師を務めるなど地域貢献に積極的に取り組むほか、広島市立大学での学生指導を通じた後進育成にも尽力している。

広島文化新人賞 贈呈の状況

回	開催年月日	贈呈数	
		個人	団体
第 1 回	令和 2 年 1 2 月 4 日	3	—
第 2 回	令和 3 年 1 2 月 6 日	3	—
第 3 回	令和 4 年 1 2 月 2 日	4	—
第 4 回	令和 5 年 1 2 月 2 0 日	6	—
第 5 回	令和 6 年 1 2 月 1 1 日	4	—
第 6 回	令和 7 年 1 2 月 5 日	5	—
合 計		25	0

